

ミニ留学で 学生のタフネスを養う

10年前から一貫してマレーシアへ

「確かな職業実践技術を持った社会人を育てる」ことを教育目的に掲げ、コンピュータやデザイン、ゲーム関係および建築関係の企業に多くの人材を輩出する国際理工情報デザイン専門学校。同校は10年前からマレーシアへのミニ留学を実施している。

そのきっかけは、ある業界団体の会合で竹井透校長が耳にした嘆きの声だった。「最近はや若い社員の心が弱い。ストレスに強い人材が欲しいのだが・・・」という経営者の声を聞き、「学生たちを未知の環境である海外に送り込んでタフネスを養う」（竹井校長）ことを思いつく。



竹井校長には日本企業のマレーシア駐在員の友人がいたこともあって、自らも渡航経験が豊富で、発展するアジア経済の中心に位置するマレーシアのダイナミックな成長ぶりや、多民族による異文化共生がもたらす価値、親日的で治安の良い社会、マレー語だけでなく英語や中国語が普通に話されている国際的な言語環境については熟知していた。そこで留学先としてマレーシアに白羽の矢を立てた。

当初の5年間は、1年次の必修科目として全員参加による1カ月間のミニ留学を実施し、5年間で約1000人がマレーシアでのミニ留学を体験した。しかし、海外での留学生活にどうしても馴染めない学生も一定数存在したため、2014年からは1年次の選択科目「国際コミュニケーション」（2単位）に切り替え、期間を約2週間に短縮して実施する形に



ミニ留学スケジュール（2018年）

1日目	成田発／クアラルンプール（KL）到着
2日目～5日目	フィールド研修（グループワーク）
6日目	UTAR大学にてカレッジ交流
7日目	マラッカへ移動してホームステイ
8日目	ホームステイ
9日目	ホームステイ先に別れを告げてKLへ移動
10日目	授業（グループワーク）
11日目	自由行動／夜の便でKL発
12日目	成田到着

変更。またミニ留学の費用約16万円のうち約6万円は学校から給付し、残りの10万円は奨学金として貸与する制度を用意し、希望者の中から選抜試験により24～28名の留学生を選考することにした。



現地ではクアラルンプール市内のホテルに滞在し、現地のUTAR大学を訪れてカレッジ交流し、4人1組の班別グループワークも実施。18年度のグループワークでは、たとえば建築設計科の班が「マレーシアの商業建築物の内外装の特徴研究」、ビジュアルデザイン科の班が「マレーシアの伝統的民族衣装の研究」などをテーマに取り上げた。このほかミニ留学中にはマラッカに移動して2泊3日のカンポン・ホームステイも体験する。

ミニ留学の教育効果をより確かなものにするため、英会話のレッスンを含む事前学習を6回、グループワークの研究成果の発表会を含めた事後学習も5回行っている。

マレーシア・ミニ留学の成果は、学生たちの自信となって現れているという。見ず知らずの海外で約2週間生活し、言語も習慣も違う人々と交流することで得る自信は大きい。竹井校長は「ミニ留学での経験を堂々と自己PRできることで、就職活動にも大いに役立っているようだ」と成果を語る。国際理工情報デザイン専門学校では、教育効果の高いマレーシア・ミニ留学を今後も続けていく方針だ。